

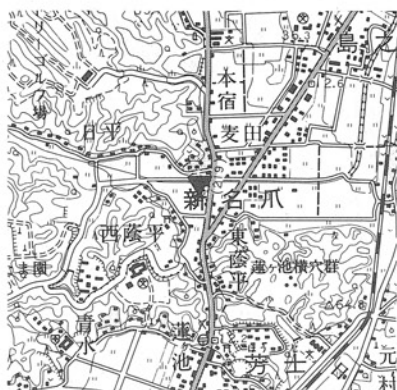
裏面には僅かに刃物を入れて折った痕跡が残っており、面調整を施しておらず、墨痕も確認できない。表面の頭部にカット面がある。木簡の釈読は、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示による。

(西住欣一郎)

# 宮崎・前田遺跡 まえだ

- 1 所在地 宮崎市大字新名爪字前田
- 2 調査期間 一九九五年(平7) 十一月～一九九六年十一月
- 3 発掘機関 宮崎県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 東 憲章
- 5 遺跡の種類 水田跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代・平安時代・中世・近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

国道一〇号宮崎北バイパス建設に先立って発掘調査が行なわれた。調査地周辺は、平安時代中期に宇佐宮領新名爪別符が置かれた地域として知られる。



(宮崎)

調査では一一～一二世紀に噴出したと思われる霧島火山起源の降下軽石の堆積が見られ、その直下から水田遺構が検出されている。その後、中世・近世を通して絶え間なく水田耕作が行なわれ現在に至っている。ま

た、調査区内の一部で、古墳時代後期(六世紀後半)の水田及び水路が検出され木製品(大足)が出土したが、古墳時代の水田の範囲は確定されなかった。

遺物は、水田耕作土に混入して古墳時代・近世まで各時代の土器・陶磁器・石製品・木製品・鉄製品が出土しているが、大部分は耕作による攪乱を受けた状態であり、層位に対応したまとまりのある出土状況ではない。各時代の集落は、調査区西側に隣接する微高地(比高差一・二m)に存在したものと推定され、出土遺物の多くは集落からの転落・廃棄によるものと思われる。

木簡は、中・近世の遺物が混在する層(水田耕作土)から出土しており時期を明確にし得ない。他に同一層からは庭下駄が出土している。

## 8 木簡の积文・内容

### (1) 「高千穂八〇」

(211)×(37)×8 081

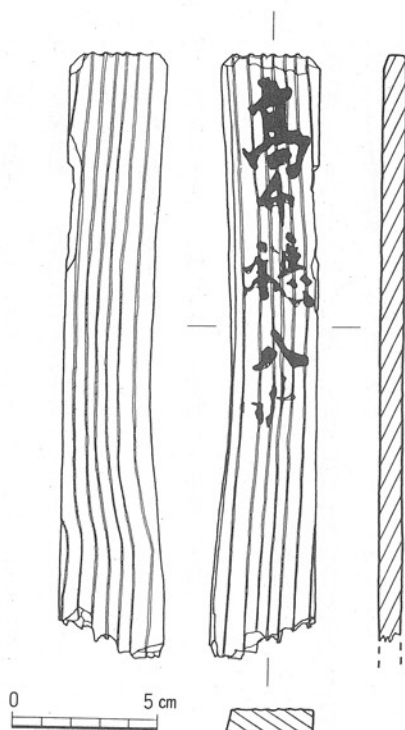
上端は切断、下端は折れている。右側は切断後削り(面取り)、左側は木目に沿って割れている。木簡の材はスギである。墨書は表面にのみ書かれ、裏面には切断加工時の工具痕が斜めに残る。

宮崎県内には二カ所の「高千穂」が存在する。一つは宮崎・鹿児島県境に位置し天の逆鉾で知られる霧島連山の高千穂峰で、もう一つは高千穂峡で知られる西臼杵郡高千穂町である。ともに天孫降臨

の地としての伝承が残されている。後者は古代の「智保郷」に比定されており、中世においては「高知尾荘」が置かれている。町内三田井には高千穂八十八社の総社としての高千穂神社が所在する。

## 9 関係文献

『前田遺跡』(宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書九 一九九八年刊行予定)



(東 憲章)